

平成 27 年度
インバウンド観光対応ルート創出事業
実施報告書

平成 28 年 3 月
株式会社 道銀地域総合研究所

目次

1. 事業概要.....	3
1-1. 事業の目的.....	3
1-2. 実施概要・実施スケジュール.....	4
1-3. 各地への事前ヒアリングの実施.....	5
2. 『事業推進会議』の実施.....	8
2-1. 第1回事業推進会議（平成27年10月7日）.....	8
2-2. 第2回事業推進会議（平成27年12月3日）.....	9
2-3. 第3回事業推進会議（平成28年3月11日）.....	10
3. 各地域における『検討会議』の実施.....	11
3-1. 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ.....	11
3-2. 小樽・北後志広域インバウンド推進協議会.....	14
3-3. 北十勝4町広域観光振興連絡協議会.....	17
3-4. 北宗谷広域観光推進協議会.....	20
3-5. るもい地域インバウンド対策会議.....	22
3-6. 東空知観光周遊ルート推進協議会.....	25
4. 事業実施に関わる全体考察.....	29

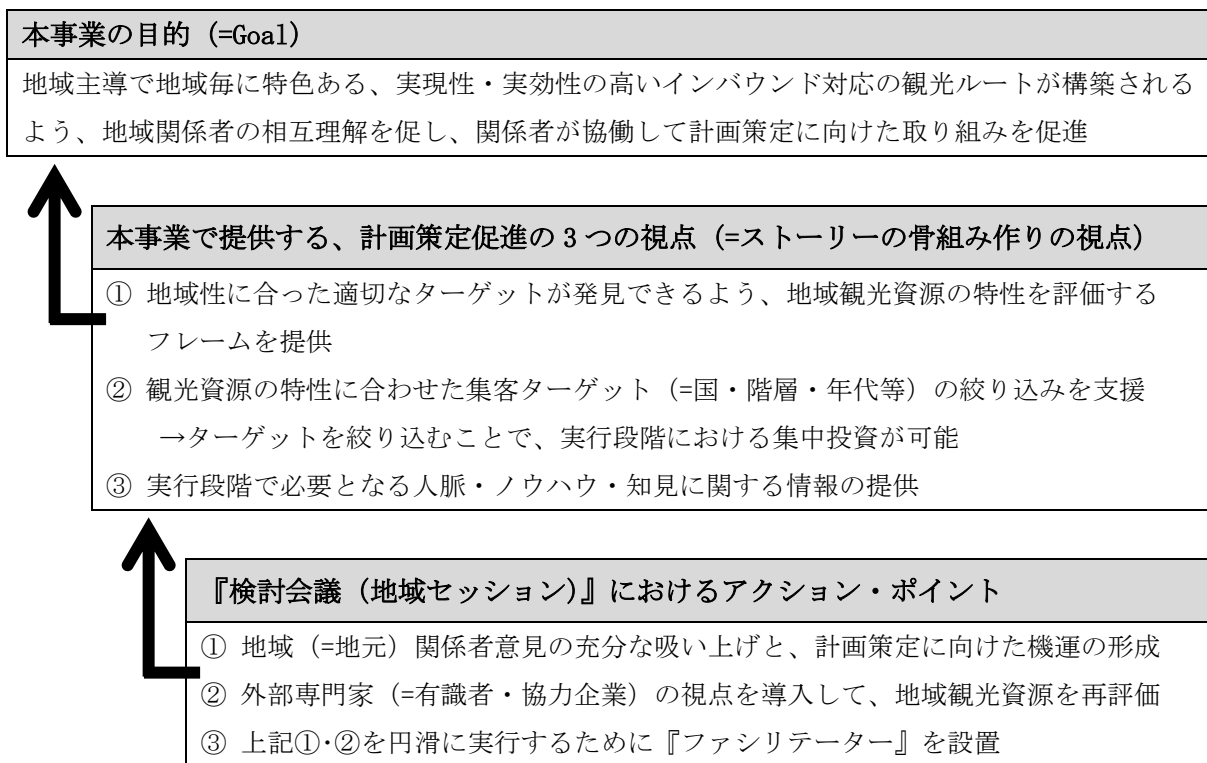
1. 事業概要

道内インバウンド観光の現状は、来道外国人観光客数が拡大傾向にあり、それを受けてインバウンド対応の観光ビジネスのチャンスも拡大段階にあると言えます。そのような中、道内でもチャンスを捉えて成功している地域がある一方、主要観光地以外の道内地域では十分な受入体制が整えられず、チャンスを掴めていない地域が多いのも実際です。地域における課題は、地域毎の観光資源によってその課題も異なってくることから、他地域で成功した事例・手法を同じように導入しても、簡単には上手くいかないところに外国人観光客を受け入れる難しさがあります。

1-1. 事業の目的

北海道内の各地域における、地元観光資源を活用したインバウンド対応ルートの構築について、その事業実施計画策定を支援します。道内におけるインバウンド観光の需要が拡大している中、各地域が自主的に連携して事業計画を構築することについては、現地だけでは人脈・ノウハウ・知見が不足しているのが実態です。これに対して本事業では『①外部専門家のコーディネート』や『②地域関係者の議論促進』を図ることで、地域のインバウンド受入れについて実効性が期待できるモデルルートが創出されるよう、実施計画の策定等をサポートします。

【事業推進の流れ】



1-2. 実施概要・実施スケジュール

(1)実施概要

①『事業推進会議』の開催

観光有識者を5名選定し、『計画策定にあたっての課題抽出及び、計画策定に必要な国別人脈及びノウハウ提供』を目的に、事業推進会議を事業期間中に計3回実施。

②『検討会議』の運営

地域の課題状況に応じて、各地域3～6回程度の検討会議を開催。会議には各地域の関係者の他、有識者等も参加の上、地域の課題抽出から計画策定までを支援。

③『事業実施計画』の策定

検討会議で決定した事項に基づいて順次、事業実施計画書を策定。この事業実施計画書に基づいて、計画策定以降、各地域のインバウンド観光受入れ強化を図る。

(2)実施スケジュール

年月	スケジュール	実施内容
平成 27 年 8 月中旬	事業開始 (8 月中旬)	●有識者選定、就任要請、事業推進会議の日程調整、会場選定、関係者参加要請
9 月	応募 10 地域に対する 事前ヒアリング	●『検討会議』開催に向けた各地域への訪問 (事前ヒアリング調査による、課題整理、日程調整、会場調整)
10 月	第 1 回『事業推進会議』(10 月上旬)	
11 月	第 1 回検討会議(10 月) 第 2 回検討会議(11 月)	『検討会議』が終了した地域から随時、『事業実施計画』を策定し、アクションプランの実行段階へシフト。 ※検討会議の回数は、地域毎の課題状況に応じて地域と調整の上、決定。
12 月	第 2 回『事業推進会議』(12 月上旬)	
平成 28 年 1 月	第 3 回検討会議(12 月) 第 4 回検討会議(1 月)	
2 月	第 5～6 回検討会議(2～3 月)	
3 月	第 3 回『事業推進会議』(3 月上旬)	
		●全実施地域における『事業実施計画』の共有、評価、実行フェーズでの課題抽出

1-3. 各地への事前ヒアリングの実施

本事業の開始にあたっては、北海道観光振興機構に対して事業の応募があった 10 地域に対して事前ヒアリングを実施し、地域の現状・取組み方針について確認を行った。

【事前ヒアリング結果一覧】

応募団体名・ ヒアリング日	出席者	取組み方針	現状及び実績
層雲峡・オホーツク シーニックバイウエイ 平成 27 年 9 月 17 日(木)	紋別観光協会 専務理事 安倍光典 主任 伊藤恭佑 オホーツク総合振興局 係長 川島宏司 主事 小野寺陸王 北海道観光振興機構 リーダー 福土裕紀展 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 6 名】	紋別市は流水シーズンに、また遠軽町も独自にインバウンド受け入れに取り組んでいるが、他の構成団体間での共通認識は弱い。また事務局の参加団体に対する平等志向が強いのも、インバウンド推進上はネックとなる可能性大。その点が解消できるのであれば、インバウンドに関心の高い地域を中心に取り組むことは可能。	紋別市は流水シーズンに、台湾・香港・東南アジアから観光客があり、紋別プリンスホテルの支配人は売込みに積極的。紋別市としては、タイ・台湾へトップセールスも行っている。インバウンドの取組みへ積極的なのは、上川町と滝上町。(紋別市内の外国人宿泊実数は H26 年度で 4,984 人、またガリンコ号の乗船は H26 年度で 4,680 人)
北十勝 4 町広域観光 振興連絡協議会 平成 27 年 9 月 16 日(水)	音更町 係長 大井規彰 主事 池田久美 鹿追町 係長 宇井直樹 主事補 對馬諒 主事 末永学 士幌町 主査 杉山みちる 主任 石井日香里 上士幌町 主幹 杉原祐二 主査 松下慎治 十勝総合振興局 係長 青田昌子 北海道観光振興機構 次長 吉岡和彦 (株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 13 名】	4 町での観光客循環を検討。FIT を対象とするのであれば帯広地区(とから観光誘致)との連携も視野に入れた活動も模索していく必要がある。4 町で協議会が設置されているも、構成員間のコンセンサスが形成できていない側面あり。	平成 27 年度からインバウンド観光推進事業を開始し、受け入れ環境を整えるため、施設の外国語対応や外国語版観光パンフレットの作成などに着手。
とから観光誘致空港 利用推進協議会 平成 27 年 9 月 16 日(水)	帯広市 課長 加藤帝 課長補佐 尾澤琴也 係長 足助和輝 十勝総合振興局 係長 青田昌子 北海道観光振興機構 次長 吉岡和彦 (株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 7 名】	比較的平坦な土地を有する当協議会団体と、山間部を有する北十勝 4 町協議会において、相互連携も模索した両協議会の取り上げも有効。FIT 対応に十分な素材有。帯広市観光課を中心とした周辺地区で協議会が形成されており、組織の継続性・遂行体制は安定的。(北十勝 4 町との重複メンバー在り)	国内はもとより海外での PR も実施中。国内は首都圏でのセミナーをはじめ関西、中京圏でのセールスコール、道内では道央圏での観光プロモーションを実施。海外については昨年インドネシア、香港へのトップセールスを行っている。過去実績国としては中国、台湾、香港、シンガポール、インドネシア等
北宗谷広域観光推進 協議会 平成 27 年 9 月 25 日(金)	稚内観光協会 事務局長 瀬川耕市 礼文町 主幹 川村長 北海道経済部観光局 主任 嘉屋潤一 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 4 名】	観光資源の地域差はあるものの、観光資源として離島 2 島(利尻島・礼文島)が含まれていることから、地域として魅力がある。また地域間の連携も強く、反対勢力がないことで今後の事業継続性も高い。JTB からインバウンド対策のアドバイスを受けているが、本事業を通してアドバイスを受けていきたい。	稚内は台湾からのツアー客が圧倒的に多く、ツアー以外についての具体的な取り組みはこれから。ただ来道観光の外国人リピーターは宿泊も含め「来てしま」状況。店舗ではクレジットカードの利用ができない店舗も多く、環境を整えていく必要がある。

応募団体名・ ヒアリング日	出席者	取組み方針	現状及び実績
留萌振興局 (るもい地域インバウンド 対策会議) 平成 27 年 9 月 15 日(火)	留萌市 係長 祐川憲章 留萌観光協会 常勤理事 海東剛哲 羽幌町 係長 木村康治 増毛町 課長 宮津敏之 留萌観光連盟 事務局長 佐藤太紀 留萌振興局 課長 石原利秀 主査 大西力也 主事 宮地麻由子 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 9 名】	今回のインバウンド対応のため、事業採択時には留萌振興局が中心になって協議会を立ち上げ予定。その意味では計画策定を行う意義が高い反面、地域としてはこれまで何も取り組めておらず、事業期間内でどこまで行えるか？は課題。	インバウンド観光客の受入れに向けた PR 活動等はこれまでに、全く行っていない(地域の宿泊施設に外国人が宿泊しているケースはあるが、恐らく観光外の目的による来留とのこと)。
小樽・北後志広域 インバウンド推進協議会 平成 27 年 9 月 24 日(木)	小樽市 室長 保科英司 主幹 島崎哲也 主査 由井卓也 北海道後志総合振興局 主事 伊東孝将 北海道観光振興機構 リーダー 福士裕紀展 (株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 7 名】	現在の協議会は、一昨年度から 2 年間の補助金を執行するために立ち上がった経緯あり。団体名に「インバウンド」を冠している点では、事業主旨に合致した活動をしている協議会。その反面、本事業の採択がない場合、協議会自体が自然消滅する懸念もある。今後の地域における自立的予算措置のためにも、組織継続できる仕組みの必要性はある。	小樽市としてはインバウンドの観光客が多いものの、その多くは通過型であり、小樽を基点とした周遊ルートの整備はできていない。また観光 OFF シーズンにおける取組みも不十分。仮にルート周遊してもらうにしても、『二次交通をどうするか？』といった課題も残っている。
芦別市 (東空知観光周遊 ルート推進協議会) 平成 27 年 9 月 30 日(水)	芦別市 課長 高橋俊之 係長 滝口勝見 片山博也 空知総合振興局 係長 茶谷智子 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 6 名】	現時点では協議会及び近隣地域への声かけができておらず、あくまで芦別市単独での応募。その一方、市内ホテル(スターライトホテル)には中国・台湾からの観光客が中継地点として宿泊しており、彼ら向けの提供メニュー・ルート構築は検討し易いと思われる。地域に滞在してもらう、又はもう 1 泊宿泊してもらうためには、地域資源の発掘等が必要。	芦別市としては従来、インバウンド観光への対応には取り組んでいない。芦別振興公社が運営する『スターライトホテル』ではこの 2 年程、旭川空港から札幌に抜ける中継地点として、中国・台湾からの団体観光客向け宿泊機能を提供している。今年度は年間 4,000 人程度の宿泊を予定しているが、宿泊のみで、芦別での観光に結び付けられていない。これを少しでも、地域の観光に結び付けていきたい。
厚真町観光協会 平成 27 年 9 月 14 日(月)	厚真町観光協会 事務局長 原祐二 厚真町 参事 木戸知二 胆振総合振興局 係長 後藤洋一 北海道観光振興機構 リーダー 福士裕紀展 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 5 名】	東胆振地域ブランドの協議会が別途立ち上がっており、地域としての主旨からするとそちらの団体で実施する可能性を検討すべきだと思う。(白老・苫小牧・安平・むかわ・厚真)	インバウンドに特定した PR 活動の実績はない。際立った観光資源もないことから単体での取組みは難しい状況と思慮されるが、浜厚真海岸などはサーフスポットとしてサーファーには有名な場所があるため、活用しだいでは観光の目玉となる要素も持っている。

応募団体名・ ヒアリング日	出席者	取組み方針	現状及び実績
TOYOURA 世界ホタテ 釣り協会 平成 27 年 9 月 15 日(火)	豊浦町商工会 高波陽平 胆振総合振興局 係長 後藤洋一 北海道観光振興機構 次長 吉岡和彦 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 4 名】	ホタテ釣り場が常設されているわけ ではないため、季節や時間を問わ ずに訪れる FIT 等の外国からの個 人観光客に対して対応できるもの でない。またそれ以外での観光資 源も乏しく、積極的誘致は難しい地 域といった印象。	道内外各地域にホタテ釣りの出張 体験を実施しているが、インバウン ド観光向けの取り組みではない。外 国人観光客では、団体ツアー客に 対してホタテ釣り体験を実施してい る。ただし常設の釣り場がないた め、漁港内の一角などで設備を検 討していく必要がある。
北海道新幹線開業を 見据えた広域観光 連携協議会 平成 27 年 9 月 16 日(水)	八雲観光物産協会 マネージャー 吉田和彦 八雲町役場 主幹 北川正敏 渡島総合振興局 係長 松本高幸 檜山振興局 室長 福井伸雅 北海道観光振興機構 副事務局長 大川健一 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 6 名】	八雲観光物産協会:吉田マネー ジャーのリーダーシップが強く、国内 観光客向けには既に、地域として 様々な取り組みをしている。今回は その取り組みを、インバウンド向けに 展開したいとの希望あり。八雲町と しての意欲が非常に旺盛な反面、 インバウンドについては応募団体間 での温度差が出てくる可能性があ る。	函館から高速道路を使って札幌方 面に向かう(及びその逆ルート)途 中のPAが八雲町情報交流物産館 「丘の駅」で、インバウンド団体ツア ーバスの中継地点にもなっている。 国内向けに様々な整備をしている 他、北海道運輸局 VisitJapan 連携 事業でインドネシアの旅行会社の 招聘、八雲町として台湾向けプロガ ーの招聘、八雲町として台湾の観 光博に出展等、積極的に展開中。 来年 3 月に新幹線が開通するの で、更なる受入体制の整備を進め たい。

2. 『事業推進会議』の実施

事業の実施にあたって、以下 5 名を有識者として選定し、『事業推進会議』を設置した。

氏名		所属・役職等
1	坂本 昌彦（座長）	(株)北海道ネイチャーセンター 代表取締役社長
2	阿部 欣司	(公社)北海道観光振興機構 アドバイザー
3	千葉 里美	札幌国際大学観光学部 講師
4	高野 康夫	ことばサポーターなぐね 代表
5	鈴木 智子	(株)Link&Loop 取締役

2-1. 第 1 回事業推進会議（平成 27 年 10 月 7 日）

(1)開催日時・開催場所

- 開催日時：平成 27 年 10 月 7 日(水)13:00～15:00
- 開催場所：札幌国際ビル貸会議室『B 会議室』（札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1 番地 札幌国際ビル 8 階）

(2)出席者（14 名）

区分	所属・役職・氏名
有識者	(株)北海道ネイチャーセンター 代表取締役 坂本 昌彦（座長） (公社)北海道観光振興機構 アドバイザー 阿部 欣司 札幌国際大学観光学部 講師 千葉 里美 ことばサポーターなぐね 代表 高野 康夫 (株)Link&Loop 取締役 鈴木 智子
オブザーバー	(株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野 友宏 (株)DMC マネージャー 高柳 未来
主催者	(公社)北海道観光振興機構 副事務局長 大川 健一 (公社)北海道観光振興機構 次長 藤田 栄一郎 北海道経済部観光局国際観光グループ 主幹 鈴木 一弘 北海道経済部観光局国際観光グループ 主任 嘉屋 潤一
事務局	(株)道銀地域総合研究所 業務部長 北嶋 雅見、研究員 山本 真史、研究員 田中 明彦

(3)議題

応募のあった 10 地域の事前ヒアリング結果に基づき、6 地域の採択を決定

審議の結果、『層雲峡・オホーツク シーニックバイウェイ』『北十勝 4 町広域観光推進連絡協議会』『北宗谷広域観光推進協議会』『るもい地域インバウンド対策会議』『東空知観光周遊ルート推進協議会』『北海道新幹線開業を見据えた広域観光連携協議会』の 6 団体を採択。しかし『北海道新幹線開業を見据えた広域観光連携協議会』から後日、辞退の連絡があり、最終的に、次点であった『小樽・北後志広域インバウンド推進協議会』を採択とした。

※ 詳細については、別添『議事録』をご参照下さい。

2-2. 第2回事業推進会議（平成27年12月3日）

(1)開催日時・開催場所

- 開催日時：平成27年12月3日(木)13:00～15:00
- 開催場所：札幌国際ビル貸会議室『B会議室』（札幌市中央区北4条西4丁目1番地 札幌国際ビル8階）

(2)出席者（13名）

区分	所属・役職・氏名
有識者	(株)北海道ネイチャーセンター 代表取締役 坂本 昌彦（座長） (公社)北海道観光振興機構 アドバイザー 阿部 欣司 札幌国際大学観光学部 講師 千葉 里美 ことばサポーターなぐね 代表 高野 康夫 (株)Link&Loop 取締役 鈴木 智子
オブザーバー	(株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野 友宏
主催者	(公社)北海道観光振興機構 副事務局長 大川 健一 (公社)北海道観光振興機構 次長 藤田 栄一郎 北海道経済部観光局国際観光グループ 主任 嘉屋 潤一
事務局	(株)道銀地域総合研究所 研究員 山本 真史、研究員 田中 明彦、奥野 幸美、エレナ トカチェンコ

(3)議題

採択6 地域における『検討会議』の進捗報告と、今後の方針検討

事務局より、採択6 地域における『検討会議』の進捗について報告。報告では、各地域会議に参加した有識者・オブザーバーから補足説明をもらった。なお報告を踏まえて、各地域の方策などについて有識者から以下の意見を頂いた。

- アジアからの来道者に聞くと、良かった場所は「小樽」という声が多い。北海道にリピートした時に、小樽に滞在してもらうストーリーができれば、滞在しながら動くというのはある。
- 地方に来てもらうには、オンリーワンのコンテンツの有無がある。環境がない場所に作らせても難しい。
- 海外の代理店は知識を持っている。例えば利尻・礼文は、インバウンドを断っている状況がある。日本人の方が旅行の単価が高いからだが、断れば来なくなるのは当たり前。
- 海外では地域毎に観光地図があって、どこに何があって、何時間・何十分でどの程度で回れるか、季節的なものも記載されている。日本人は詰め込みたがるが、シンプルなものが良い。
- あれもこれも全部売ろうとすると、売りが埋没してしまう。コンテンツを絞るというのは重要な視点。
- 受入体制があれば来る。北海道には受入体制がない。また教育旅行ではガイドの質が問われる。ガイドが育っている会社はほとんどなく、海外から北海道にきたい観光客は多いが、受入れ側がお金を払ってもらう(=お金を取る)までの体制を整備できていない。

※ 詳細については、別添『議事録』をご参照下さい。

2-3. 第3回事業推進会議（平成28年3月11日）

(1)開催日時・開催場所

- 開催日時：平成28年3月11日(金)15:00～17:00
- 開催場所：札幌国際ビル貸会議室『A会議室』（札幌市中央区北4条西4丁目1番地 札幌国際ビル8階）

(2)出席者（15名）

区分	所属・役職・氏名
有識者	(株)北海道ネイチャーセンター 代表取締役 坂本 昌彦（座長） (公社)北海道観光振興機構 アドバイザー 阿部 欣司 札幌国際大学観光学部 講師 千葉 里美 ことばサポーターなぐね 代表 高野 康夫 (株)Link&Loop 取締役 鈴木 智子
オブザーバー	(株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野 友宏
主催者	(公社)北海道観光振興機構 副事務局長 大川 健一 (公社)北海道観光振興機構 次長 掛田 政希 北海道経済部観光局国際観光グループ 主幹 鈴木 一弘 北海道経済部観光局国際観光グループ 主任 嘉屋 潤一
事務局	(株)道銀地域総合研究所 業務部長 北嶋 雅見、研究員 山本 真史、研究員 田中 明彦、奥野 幸美、 エレナ トカチェンコ

(3)議題

平成27年度の採択6地域における、事業計画及びアクションプラン策定方針の検討

事務局より、第2回事業推進会議以降の各地域会議の進捗説明と合わせて、稚内を除く5地域で実施した、近畿日本ツーリスト受託『インバウンド観光資源発掘事業』（モニターツアー）の結果について報告。それらの報告を受けて、今後の各地域における事業実施計画の策定にあたっての方向性について、ご有識者の方々から以下の意見・示唆を頂いた。

- 周遊型観光から、拠点型観光に切りかえていく必要がある。特にFIT向けに展開するのであれば、オプションツアーのような形でお金を取っていくための仕掛け作りが必要。
- 然別湖コタンや、小樽：雪あかりの路に来ている海外ボランティアスタッフの例のように、特徴的な資源に乏しい地域では、単に見せるだけの観光ではなく、そこにコミュニケーションを発生させて、マニアックなファンを作っていく仕掛けが必要。
- 観光資源に乏しい道内の地方都市が、正面から大手代理店に営業しても相手にされない。したがって、海外の専門ツアー型の代理店（例えば、アウトドア専門にツアーを組んでいる代理店等）をどう発掘し、そこに売り込んでいくかが重要になってくる。

※ 詳細については、別添『議事録』をご参照下さい。

3. 各地域における『検討会議』の実施

3-1. 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

(1)実施概要

実施回	開催日	出席者
第1回	平成27年12月1日(火)	紋別観光協会 専務理事 安倍光典、主任 伊藤恭佑 湧別町商工会 事務局次長 高桑誠 西興部商工会 事務局長 田先久美 紋別商工会議所 事務局長 加賀博之、係長 曾根大希 紋別市観光交流推進室 副参事 織田知憲 遠軽商工会議所 事務局長 長谷川光夫 えんがる商工会 事務局長 佐々木重俊 滝上町商工会 事務局長 遠子内隆 遠軽商工会 竹野内義文 滝上町商工観光課 課長 星敦 ㈱DMC プランナー 高柳未来 北海道観光振興機構 副事務局長 大川健一 オホーツク総合振興局 係長 川島宏司、主事 鈴木遥菜 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計18名】
実施概要		
『地域における観光の課題（この会議に期待していること）』『もし自分達が海外旅行をしたらどう思うか？』『地域として狙うべきターゲット層（ボリュームゾーンでは無い）』等について、会議参加者からの、本音による意見出しを行った。		

実施回	開催日	出席者
第2回	平成28年1月13日(水)	紋別観光協会 専務理事 安倍光典、主任 伊藤恭佑 紋別商工会議所 事務局長 加賀博之、係長 曾根大希 紋別市観光交流推進室 副参事 織田知憲 佐呂間町商工会 事務局長 高橋悟 佐呂間町観光物産協会 事務局長 玉井伸一 遠軽町役場商工観光課 係長 倉内健一 えんがる町観光協会 専務理事 中村康夫、事務局長 村上武志 遠軽商工会議所 事務局長 長谷川光夫、総務課長 竹野内義文 滝上町観光協会 事務局長 畠山尊行 滝上町商工会 事務局長 遠子内隆 雄武町観光協会 事務局長 高田勉 北海道開発技術センター 主任研究員 青木伸仁 北海道観光振興機構 副事務局長 大川健一 オホーツク総合振興局 係長 川島宏司、主事 鈴木遥菜 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計21名】
実施概要		
当地のインバウンド受入れ状況について、統計データに基づいた現状を分析。その仮説として『①層雲峡発のルート』『②北見・網走・斜里発のルート』『③紋別泊での滞在型ルート』の3ルートを検討。季節は10月,2月,5～6月で提案を考えることとなった。		

実施回	開催日	出席者（意見交換会出席者）
観光資源 発掘ツアー	平成 28 年 2 月 22 日(月) ～2 月 24 日(水)	<モニター：8 名> Delvin Abdie Martinez（ニカラグア） McGrath Peter（アメリカ） Weerawanich Pirawan（タイ） ファム・ティ・チャーミー（ベトナム） 金明姫（韓国） 禹守貞（韓国） 汪柯（中国） 洪瑞筠（台湾） <関係者：4 名> 紋別観光協会 専務理事 安倍光典 ㈱近畿日本ツーリスト北海道 専任課長 市村将三 北海道観光振興機構 次長 掛田政希 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 12 名】
実施概要		
在道外国人(計 8 名参加)による『観光資源発掘ツアー』を開催し、インバウンド受入について、地域で売込みを図りたい観光資源を外国人視点から評価・フィードバック。 【コース概要】 (1 日目) 札幌発→遠軽地区(白滝,遠軽,丸瀬布)→遠軽泊 (2 日目) 遠軽発→佐呂間→湧別→滝上→紋別泊 (3 日目) 紋別発→紋別→意見交換会→札幌着 ※北海道観光振興機構実施の事業に参加（受託：近畿日本ツーリスト）		

実施回	開催日	出席者
第 3 回	平成 28 年 3 月 29 日(火)	紋別観光協会 専務理事 安倍光典、主任 伊藤恭佑 滝上町商工会 事務局長 遠子内隆 西興部村商工会 田先久美 上川町商工会 寺坂敏彦 遠軽商工会議所 長谷川光夫 湧別町商工会 高桑誠 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希 オホーツク総合振興局 係長 川島宏司 ㈱道銀地域総合研究所 業務部長 北嶋雅見 【計●名】
実施概要		
モニターツアーの結果を受けて、出席者と一緒に、モデルコース及びアクションプランを検討。本会としての事業実施計画をまとめた		

※『会議の詳細』及び『開催場所』については、別添『議事録』をご参照下さい。

※『観光資源発掘ツアー』の行程については、別添『事業実施計画書』内に記載。

(2)事業実施計画及び、今後の展開

検討項目	概要
1.地域の現状等	過去 15 年間におけるオホーツク総合振興局（旧・網走支庁）圏域の入込み数は、平成 13 年度をピークにほぼ右肩下がり推移中も、ここ 3 年間は微増～横ばいで推移。地域全体の宿泊延数に対する、外国人宿泊延数の割合は低い、近年は割合が増えてきている（H26 年度:5.4%）。
2.ターゲット	層雲峡発、網走・北見発による、域内周遊ルートを提案 →現状の入込が多い、台湾、香港、韓国、中国がターゲット ⑤タイ：9 百人泊 ①ピークの 8 月迄のキャパが望める季節（5 月、6 月、7 月）を強化 ②入込が弱い季節で、観光資源が期待できる季節（1 月、3 月）を強化
3.課題	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア内の観光資源同士の連携が取れていない。 ・旅行商品化するために、外部の人間を活用していく必要がある。 ・地域での受入れを、「民間企業が対応してもできるか？」は課題。 ・町内の飲食店でも、通訳できる人がいれば受け入れができる。 ・「いかにお金を落としてもらおうか？」についてはもっと考え、仕組みを構築していかなければならない。（お土産品は全部、日本語表記等） ・点の観光資源では動かないので、面によるルート作りが不可欠。
4.目標等	「滝上：芝桜」「湧別：チューリップ」にレンタカーで来た海外 FIT 客を測定（H28 年度は測定の年度と位置付ける）。その上で、H28 年度の実績を受けて、H29 年度は、H28 年度比 150%の海外 FIT 客の誘客を図る
5.アクションプラン	①「花観光」を目玉とした、西オホーツク地域ならではの体験観光ツアーの企画 ②外国語による留萌エリアの情報発信を FIT 向けに実施 ③西オホーツクエリア内の観光事業者向け、インバウンド受入れ研修の実施 ④情報発信量の増加施策を実施（パワーブロガー等の招聘や、SNS 等を通じた情報発信） ⑤「周遊ツアー」のプロモーション（海外旅行博覧会等での積極的な売り込み）

※事業実施計画の詳細については、別添『事業実施計画書』にてまとめているのでご参照下さい。

3-2. 小樽・北後志広域インバウンド推進協議会

(1)実施概要

実施回	開催日	出席者
第1回	平成27年11月4日(水)	<p>小樽市 室長 保科英司、主幹 島崎哲也、主査 由井卓也、木間洋輔</p> <p>余市町 主事 武内彰廣</p> <p>古平町 課長 宮田誠市</p> <p>積丹町 課長 山崎英幸</p> <p>赤井川村 課長 原智之</p> <p>仁木町観光協会 チーフ 猪俣麻衣子</p> <p>古平町観光協会 事務局 澤口達真</p> <p>積丹町観光協会 事務局長 逢坂節子</p> <p>(一社)小樽観光協会 事業推進マネージャー 永岡朋子</p> <p>ことばサポーターなぐね 代表 高野康夫</p> <p>(株)Link&Loop 取締役 鈴木智子</p> <p>(株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏</p> <p>北海道後志総合振興局 係長 斎藤路子</p> <p>(株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦、奥野幸美</p> <p>【計19名】</p>
実施概要		
<p>ワークショップ形式で、インバウンドについて『過去に起こっていたこと』『現在起こっていること』『これから起こると思われること・トレンド』について参加者から意見を出してもらい、当該意見をまとめ、参加者間での認識を共有した。</p>		

実施回	開催日	出席者
第2回	平成27年11月27日(金)	<p>小樽市 室長 保科英司、主幹 島崎哲也、主査 由井卓也、木間洋輔</p> <p>仁木町 主事 武内彰廣</p> <p>古平町 主任 澤口達真</p> <p>積丹町 主査 上田貴鋭</p> <p>赤井川村 係長 横井慎之</p> <p>余市観光協会 マネージャー 伊藤二朗</p> <p>小樽観光協会 事業推進マネージャー 長岡朋子</p> <p>仁木町観光協会 チーフ 猪俣麻衣子</p> <p>ことばサポーターなぐね 代表 高野康夫</p> <p>(株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏</p> <p>北海道観光振興機構 リーダー 福土裕紀展</p> <p>後志総合振興局 室長 大島吾一、係長 斎藤路子</p> <p>(株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦、奥野幸美</p> <p>【計19名】</p>
実施概要		
<p>参加者から『北後志をつなぐキーワード』というテーマで意見出しをしてもらった上で、『エリア内のルートイメージ』『提案コンセプト』について意見出しを行った。(小樽ハブ型、ニセコに来ている外国人を取り込みたいという意見が出た。)</p>		

実施回	開催日	出席者
第 3 回	平成 28 年 1 月 25 日(月)	<p>小樽市 室長 保科英司、主幹 嶋崎哲也、主査 由井卓也、木間洋輔</p> <p>余市町 係長 本間憲明</p> <p>仁木町 主事 武内彰廣</p> <p>古平町 主任 澤口達真</p> <p>積丹町 課長 山崎英幸</p> <p>赤井川村 係長 横井慎之</p> <p>小樽観光協会 事業推進マネージャー 永岡朋子</p> <p>仁木町観光協会 チーフ 猪俣麻衣子</p> <p>(株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏</p> <p>(株)近畿日本ツーリスト 専任課長 市村将三</p> <p>北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希</p> <p>後志総合振興局 係長 斎藤路子</p> <p>(株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦、奥野幸美</p> <p>【計 19 名】</p>
実施概要		
<p>第 1～2 回までの会議結果を受けて、統計データから地域の現状について情報共有。その上で、地域の観光資源について、季節毎・地域毎に意見出しを行い、まとめた。(ここまでの結果を受けて、事業実施計画の暫定版を策定)</p>		

実施回	開催日	出席者（意見交換会出席者）
観光資源 発掘ツアー	平成 28 年 2 月 15 日(月) ～2 月 16 日(火)	<p><モニター：8 名></p> <p>Bussaya Miura (タイ)</p> <p>Chen Vipavee (タイ)</p> <p>Delvin Abdiel Martinez (ニカラグア)</p> <p>ファム・ティ・チャーミー (ベトナム)</p> <p>韓尚佑 (韓国)</p> <p>金昇仁 (韓国)</p> <p>周雪欣 (中国)</p> <p>洪瑞筠 (台湾)</p> <p><関係者：7 名></p> <p>小樽市 室長 保科英司、主幹 嶋崎哲也、主査 由井卓也、木間洋輔</p> <p>(株)近畿日本ツーリスト 専任課長 市村将三</p> <p>北海道観光振興機構 次長 掛田政希</p> <p>(株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦</p> <p>【計 15 名】</p>
実施概要		
<p>在道外国人(計 8 名参加)による『観光資源発掘ツアー』を開催し、インバウンド受入について、地域で売込みを図りたい観光資源について、外国人視点から評価・フィードバックを行った。</p> <p>【コース概要】</p> <p>(1 日目) 札幌発→古平→積丹→余市→小樽泊(夜の散策)</p> <p>(2 日目) 小樽発→赤井川→仁木→意見交換会→札幌着</p> <p>※北海道観光振興機構実施の事業に参加(受託：近畿日本ツーリスト)</p>		

実施回	開催日	出席者
第 4 回	平成 28 年 3 月 23 日(水)	<p>小樽市 主幹 嶋崎哲也、主査 由井卓也、木間洋輔 余市町 係長 本間憲明 仁木町 主事 武内彰廣 古平町 主任 澤口達真 積丹町 課長 山崎英幸 赤井川村 係長 横井慎之 余市観光協会 マネージャー 伊藤二郎 仁木町観光協会 マネージャー 鈴木さつき 積丹観光協会 事務局長 逢坂節子 小樽観光協会 事業推進マネージャー 永岡朋子 (株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希、 次長 野田卓司、アシスタントリーダー 小室抄織 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計 19 名】</p>
実施概要		
<p>モニターツアーの結果を受けて会議出席者と一緒に、モデルコース及びアクションプランを検討。本協議会としての事業実施計画をまとめた。</p>		

※『会議の詳細』及び『開催場所』については、別添『議事録』をご参照下さい。

※『観光資源発掘ツアー』の行程については、別添『事業実施計画書』内に記載。

(2)事業計画及び今後の展開

検討項目	概要
1.地域の現状等	<p>①外国人観光客の動き・トレンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FIT 客の増加傾向、FIT 客のレンタカー移動も増えてきている →余市では観光農園や宇宙記念館での来場も増加しており団体メインも、FIT も増えてきている。また仁木の観光農園は、台湾の団体客が多い。果物狩りは、東南アジア系の方の評判が良い。 ・台湾ケーブル TV での『マッサン』再放送効果 → 余市・積丹で東アジア系の観光客が増えてきた ・ニセコ地区に宿泊の外国人観光客は、エリア内では自転車での移動もある。 <p>②地域の動き・流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余市・仁木を中心に、ワイナリーの新規建設が進んでいる ・平成 30 年に、余市まで高速道路が延伸予定
2.ターゲット	<p>①国を問わず、北海道に複数回来ている外国人の個人手配観光客(=FIT) →北後志で団体を受け入れられる施設等は自ずと限られてしまうため。</p> <p>②夏場と冬場とでは、ターゲットとする国が異なってくる。</p>
3.課題	<p>①FIT 観光客はコアな情報を欲しがっているが、十分な情報提供ができていない。</p> <p>②地域では全体的に、インバウンドの受入に積極的なプレイヤーが少ない。</p> <p>③言語対応は地域全体として遅れている。</p>
4.目標等	<p>H28 年度から小樽運河プラザにて、H27 年度に制作したルートマップの効果測定を開始。H28 年度は、実績測定年度と位置付け、H29 年度は H28 年度比 150%の利用実績を目標とする。</p>
5.アクションプラン	<p>①小樽発着、ニセコ地区発着 p 北後志日帰りインバウンド観光ルートの構築</p> <p>②外国語版、FIT 向け北後志エリア観光ルートマップの作成 (5 か国語対応)</p> <p>③北後志エリア内の観光事業者向け、インバウンド受入れ研修の実施</p> <p>④海外の観光博覧会への参加</p> <p>⑤海外旅行代理店や著名ブロガーの招聘</p>

※事業実施計画については、別添『事業実施計画書』にまとめていますのでご参照下さい。

3-3. 北十勝 4 町広域観光振興連絡協議会

(1)実施概要

実施回	開催日	出席者
第 1 回	平成 27 年 11 月 20 日(金)	音更町 課長 井原愛啓、係長 大井規彰、主事 池田久美 鹿追町 係長 宇井直樹、主事補 對馬諒、主事 末永学 士幌町 主査 杉山みちる、主任 石井日香里 上士幌町 主幹 杉原祐二、主査 松下慎治 ㈱北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 13 名】
実施概要		
参加者から『インバウンド観光に対する課題認識』『目標イメージ（北十勝のインバウンドをこうしていきたい）』『季節毎の観光資源』のテーマについての自由意見を出してもらい、その内容についてまとめた上で、参加者間での認識共有を図った。		

実施回	開催日	出席者
第 2 回	平成 27 年 12 月 21 日(月)	音更町 課長 井原愛啓、係長 大井規彰、主事 池田久美 鹿追町 係長 宇井直樹、主事補 對馬諒、主事 末永学 士幌町 主査 杉山みちる、主任 石井日香里 上士幌町 主幹 杉原祐二、主査 松下慎二 音更町十勝川温泉観光協会 事務局次長 窪浩政 十勝総合振興局 係長 青田昌子 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計 16 名】
実施概要		
当地におけるインバウンドの状況について、統計データに基づいて現状を分析。その後、中期的な目標として「リピーターを増やしていきたい」「滞在時間を長期化させたい（滞在型にしていきたい）」との意向を共有。コンセプトを『Northern TOKACHI ネイチャーライフ』として、北十勝ならではの自然・食の恵みを体感してもらう旅を提案することで一致した。		

実施回	開催日	出席者（意見交換会出席者）
観光資源 発掘ツアー	平成 28 年 2 月 17 日(水) ～2 月 19 日(金)	<モニター：8 名> Delvin Abdie Martinez（ニカラグア） McGrath Peter（アメリカ） Yamashita Somuchit（タイ） ファム・ティ・チャーミー（ベトナム） 金明姫（韓国） 禹守貞（韓国） 陳哲敏（中国） 黄文英（台湾） <関係者：15 名> 音更町 課長 井原愛啓、係長 大井規彰、主事 池田久美 鹿追町 係長 宇井直樹、主事補 對馬諒、主事 末永学 士幌町 主査 杉山みちる、主任 石井日香里 上士幌町 主幹 杉原祐二、主査 松下慎二、荒沢望美 音更町十勝川温泉観光協会 事務局次長 窪浩政 ㈱近畿日本ツーリスト北海道 専任課長 市村将三 北海道観光振興機構 次長 掛田政希 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 23 名】
実施概要		
在道外国人(計 8 名参加)による『観光資源発掘ツアー』を開催し、インバウンド受入について、地域で売込みを図りたい観光資源について、外国人視点から評価・フィードバックを行った。 【コース概要】 (1 日目) 札幌発→鹿追(市街,然別湖)→鹿追泊(然別湖温泉) (2 日目) 鹿追発→上士幌(糠平温泉郷)→音更泊(十勝川温泉) (3 日目) 音更発→士幌→意見交換会→札幌着 ※北海道観光振興機構実施の事業に参加（受託：近畿日本ツーリスト）		

実施回	開催日	出席者
第 3 回	平成 28 年 3 月 15 日(火)	音更町 課長 井原愛啓、係長 大井規彰、主事 池田久美 鹿追町 主事補 對馬諒、主事 末永学 士幌町 主査 杉山みちる、主任 石井日香里 上士幌町 主幹 杉原祐二、主査 松下慎二、荒沢望美 音更町十勝川温泉観光協会 事務局次長 窪浩政 十勝総合振興局 係長 青田昌子 北海道観光振興機構 次長 掛田政希、次長 村上邦利、 アシスタントリーダー 小室抄織 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計 17 名】
実施概要		
モニターツアーの結果を受けて、出席者と一緒に、モデルコース及びアクションプランを検討。本協議会としての事業実施計画をまとめた。		

※『会議の詳細』及び『開催場所』については、別添『議事録』をご参照下さい。

※『観光資源発掘ツアー』の行程については、別添『事業実施計画書』内に記載。

(2)事業計画及び今後の展開

検討項目	概要
1.地域の現状等	<p>過去 15 年間の十勝総合振興局圏域の入込み数は、概ね右肩上がりで推移中。協議会の 4 町での外国人の宿泊数では、十勝川温泉で訪日外国人宿泊客が多かった時期（H20 年度頃まで）があった。しかし、一時期落ち込みがあり、近年はまた、宿泊が伸びてきている。</p> <p>■伸びているインバウンドを伸ばすか？減っている国内客を戻すか？で考えた時、伸びしろのあるインバウンドを伸ばしていこうという考え方。</p> <p>■4 町で一体的に魅力を発信して、インバウンドを取り込んでいきたい（今後のターゲットは団体より FIT）</p> <p>■地域としてオールシーズンで対応し、相対的な底上げをしていきたい。</p> <p>■冬だけの魅力があるので、長期滞在型にしたい。</p>
2.ターゲット	<p>①団体客：タイ、シンガポール、インドネシア（受入時期：11 月下旬～6 月上旬）</p> <p>②個人客 欧米系、シンガポール ※ レンタカーでの移動を想定（受入時期：オールシーズン）</p>
3.課題	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通情報の整理 ・海外向けの情報発信 ・観光を通じた経済効果の創出 ・季節毎の繁閑差の解消（①新しい観光資源の発掘、②既存観光資源の魅力掘り下げ） ・言語対応
4.目標等	H28 年度は 4 町合計の冬季間（12 月～2 月）外国人宿泊客数を、H27 年度比+25%UP
5.アクションプラン	<p>①資源の魅力を、「ここ行きたい化」「これ見てみたい化」「これやってみたい化」</p> <p>②リピート化に向けた、中長期でのリレーション構築の仕掛けづくり</p> <p>③海外の観光博覧会への参加</p> <p>④海外旅行代理店や著名ブロガーの招聘</p> <p>⑤英語版：二次交通情報の発信</p>

※事業実施計画については、別添『事業実施計画書』にまとめていますのでご参照下さい。

3-4. 北宗谷広域観光推進協議会

(1)実施概要

実施回	開催日	出席者
第 1 回	平成 27 年 11 月 13 日(金)	稚内市 課長 渡辺直人、主査 太田真大 稚内観光協会 専務理事 東政史、事務局長 瀬川耕市 豊富町観光協会 栗山尚久 猿払村観光協会 瀧澤望 利尻富士町観光協会 島谷一昭、山本博文 礼文島観光協会 川村長、竹中俊一 ハートランドフェリー 営業部長 佐藤秀樹 宗谷バス 代表取締役 中場直見、次長 下野之照 JTB 北海道 伊藤誠、原田亜紀 (株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎 北海道宗谷総合振興局 係長 中村栄二、土居志奈乃 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 20 名】
実施概要		
<p>参加者の「インバウンド観光における問題・課題意識」と「目標（北宗谷のインバウンドの方向性）イメージ」について意見を出してもらい、認識を共有した。以上を踏まえて、ターゲットを『海外の FIT 客（個人・家族・グループ・夫婦、ターゲット国は、シンガポール・香港・アジア近隣英語圏及び、欧米諸国）』、コンセプトを『アジア最北のナショナルパークである北宗谷の『日常の当たり前』を伝えていこう！』で地域の観光を提案していくことで決定（なお後日、第 1 回検討会議で出た意見に基づいて、『事業実施計画書』を策定）</p>		

実施回	開催日	出席者
第 2 回	平成 28 年 2 月 12 日(金)	稚内市 課長 渡辺直人 稚内観光協会 専務理事 東政史、専務理事 梶隆一、 理事 品田静雄、事務局長 瀬川耕市、木村正志 豊富町観光協会 栗山尚久 猿払村観光協会 瀧澤望 利尻富士町観光協会 山本博文 礼文島観光協会 川村長、竹中俊一 ハートランドフェリー 営業部長 佐藤秀樹 宗谷バス 次長 下野之照 JTB 北海道 原田亜紀 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎 北海道宗谷総合振興局 係長 中村栄二 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 17 名】
実施概要		
<p>第 1 回検討会議で出た意見に基づいて策定した『事業実施計画書』に基づいた『今後のインバウンド受入れに向けたアクションプラン』について説明。本事業計画について、参加者からの賛同を得て、協議会として正式に、本実施計画に沿ったインバウンド受入れ推進を進めることとなった。</p>		

※『会議の詳細』及び『開催場所』については、別添『議事録』をご参照下さい。

(2)事業計画及び今後の展開

検討項目	概要
1.地域の現状等	①過去 15 年間における宗谷総合振興局（旧・宗谷支庁）圏域の入込ピークは、平成 14 年度の 2,992 千人で、入込総数はその後、ゆるやかな減少トレンドで推移中（平成 26 年度：1,846 千人） ②訪日外国人宿泊数は、過去 2 年間で急激な上昇基調(平成 26 年度：15,324 人泊)
2.ターゲット	海外の FIT 客（個人・家族・グループ・夫婦） → ターゲット国は、シンガポール・香港・アジア近隣英語圏及び、欧米諸国
3.課題	①北宗谷地域全体の入込客数は平成 14 年度をピークに大きく減少。特に国内観光客が減少している中において、インバウンドの入込だけは増加傾向にある。このことから地域としてはインバウンド対応を強化することで、国内観光客の減少分を少しでも補っていきたい。 ②自然資源を活かした体験型観光が観光資源になりそう。しかしそれを行うプレイヤーがおらず、何とか地域として育てていかなければならない。
4.目標等	①北宗谷エリアは道内でもマイナーな地域（道内で 4 番目に訪れる場所）であることから、FIT 客向けに絞り込んだ地域ブランドを確立していく。 →次年度、インバウンド PR 用の域内交通パス付冊子を 300 冊作成して、販売。 ②自然を中心に、観光資源になりそうなものは沢山眠っている。しかし欧米系を中心に日本人ではしないような遊び方をするので、外国人モニターツアー等を通じて、外国人が関心を持つ観光資源の掘り起こしを行い、魅力的な情報発信を実践していく。（JTB に事業を依頼中） ③外国人観光客の受け入れ体制の整備、受入マインド醸成を図る。 →観光事業者向けのセミナー等を開催
5.アクションプラン	①地域の魅力（＝北宗谷の『日常の当たり前』）を伝えていくための広報ツール作り。具体的には、インバウンド版の PR 資材を英語と繁体字とでデータ作成する。それを元に次年度、ツールを 300 冊販売。 ②地域における、インバウンド受入マインドの醸成のために、域内市町村における観光事業者を対象に、インバウンド受入のために必要なスキルを習得するための研修を実施（1～3 月）。 ③デザイン部会を通じた、地域の魅力を海外に発信できる PR ツールの整備

※事業実施計画については、別添『事業実施計画書』にまとめていますのでご参照下さい。

3-5. るもい地域インバウンド対策会議

(1)実施概要

実施回	開催日	出席者
第 1 回	平成 27 年 11 月 25 日(水)	留萌市 係長 祐川憲章 留萌観光協会 常勤理事 海東剛哲 羽幌町観光協会 事務局長 藤田隆二 羽幌町 係長 木村康治 増毛町 課長 宮津敏之 ㈱北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎 留萌振興局産業振興部 課長 石原利秀、主査 大西力也 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦、 奥野幸美 【計 12 名】
実施概要		
参加者から『インバウンド観光に対する課題認識』『目標イメージ（留萌地域のインバウンドをこうしていきたい）』『ターゲット』『受入コンセプト』について意見を出してもらい、まとめ、参加者間での認識共有を図った。		

実施回	開催日	出席者
第 2 回	平成 28 年 1 月 21 日(木)	留萌市 係長 祐川憲章 留萌観光協会 常勤理事 海東剛哲 羽幌町観光協会 事務局長 藤田隆二 羽幌町 係長 木村康治 増毛町 課長 宮津敏之、課長補佐 忠鉢一史 ㈱クニマレリゾート開発ましけ マネージャー 梅野耕平 小平町経済課 主任 鴨田文夫 北海道開発局留萌開発建設部地域振興対策室 柴田斉 札幌国際大学 講師 千葉里美、朱盈、韓知潤 ㈱DMC マネージャー 高柳未来 ㈱近畿日本ツーリスト北海道 専任課長 市村 将三 北海道観光振興機構 次長 掛田政希 北海道経済部観光局 主査 逸見光寿 留萌振興局 課長 石原利秀、主査 大西力也、 主事 宮地麻由子 ㈱道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、奥野幸美、 エレナ・トカチェンコ 【計 22 名】
実施概要		
当地のインバウンドの状況について、統計データに基づいた現状を分析。また事前課題として出して頂いた『地域の観光資源』について、ゲストの在道外国人 3 名から、資源毎に『どう感じるか?』をコメントしてもらい、地域として見せていくべき観光資源の絞り込みを行った。		

実施回	開催日	出席者（意見交換会出席者）
観光資源 発掘ツアー	平成 28 年 2 月 3 日(木) ～2 月 4 日(金)	<モニター：8 名> Delvin Abdie Martinez（ニカラグア） Chen Vipavee（タイ） Khanuengnit（タイ） Nguyen Nhan Tuan（ベトナム） 禹守貞（韓国） 謝強強（中国） 張穎珍（中国） 陳 熾婷（台湾） <関係者：11 名> 留萌市 係長 祐川憲章 留萌観光協会 常勤理事 海東剛哲 羽幌町観光協会 事務局長 藤田隆二 羽幌町 係長 木村康治 (株)DMC マネージャー 高柳未来 (株)近畿日本ツーリスト北海道 専任課長 市村 将三 北海道観光振興機構 次長 掛田政希 留萌振興局 課長 石原利秀、主査 大西力也、 主事 宮地麻由子 (株)道銀地域総合研究所 研究員 田中明彦 【計 19 名】
実施概要		
在道外国人(計 8 名参加)による『観光資源発掘ツアー』を開催し、インバウンド受入について、地域で売込みを図りたい観光資源について、外国人視点から評価・フィードバックを行った。 【コース概要】 (1 日目) 札幌発→羽幌→小平→留萌泊 (2 日目) 留萌発→増毛→留萌→意見交換会→札幌着 ※北海道観光振興機構実施の事業に参加（受託：近畿日本ツーリスト）		

実施回	開催日	出席者
第 3 回	平成 28 年 3 月 16 日(水)	留萌市 係長 祐川憲章 留萌観光協会 常勤理事 海東剛哲 羽幌町 係長 木村康治 増毛町 課長 宮津敏之 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希、 次長 山崎俊泰、アシスタントリーダー 小室抄織 留萌振興局 課長 石原利秀、主査 大西力也、 主事 宮地麻由子 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計 13 名】
実施概要		
モニターツアーの結果を受けて、出席者と一緒に、モデルコース及びアクションプランを検討。本会議としての事業実施計画をまとめた。		

※『会議の詳細』及び『開催場所』については、別添『議事録』をご参照下さい。

※『観光資源発掘ツアー』の行程については、別添『事業実施計画書』内に記載。

(2)事業計画及び今後の展開

検討項目	概要
1.地域の現状等	過去 15 年間における留萌振興局圏域の入込み数は、右肩下がりだったものの、H24 年度頃から横ばい化している状況。協議会参加市町村においても、訪日外国人観光客はほとんど来ていないと推察される。
2.ターゲット	ターゲット国は、アジア圏の国全般（台湾、タイ、シンガポール、ベトナム、マレーシア 等） ①滞在型モデル（夏から）：「離島と海の自然による、リゾート型キャンプ」の提案 →海外地場の専門型旅行代理店（例えば、海外でのアウトドアに特化している代理店）等の開拓（海外パートナーの開拓） ②通過型モデル：「“留萌地域らしい” アクティビティ」を日帰りで提案（域内の魅力をコース化） →「留萌エリアでしかできない」という目玉アクティビティ（＝本物・ガチ・オリジナル）による訴求力強化
3.課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で自慢できるものの魅せ方に必要性を感じていなかったもので、工夫をしていきたい。（留萌管内のスペシャルなものを磨き上げていきたい） ・観光ガイドの必要性 ・季節の繁閑差の解消
4.目標等	グランピング事業における外国人の受け入れ数：20 名
5.アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ①「離島」を目玉とした、留萌地域ならではの体験観光ツアーの企画 ②外国語による留萌エリアの情報発信を FIT 向けに実施 ③留萌エリア内の観光事業者向け、インバウンド受入れ研修の実施 ④情報発信量の増加施策を実施（パワーブロガー等の招聘や、SNS 等を通じた情報発信） ⑤「日帰りツアー」のプロモーション（海外旅行博覧会や、札幌・旭川市内のホテルにて実施）

※事業実施計画については、別添『事業実施計画書』にまとめていますのでご参照下さい。

3-6. 東空知観光周遊ルート推進協議会

(1)実施概要

実施回	開催日	出席者
第 1 回	平成 27 年 11 月 9 日(月)	赤平市 係長 笹木学 滝川市 係長 今安紀子、事務補佐 村上琴美 (一社)たきかわ観光協会 事務局長 嶋田浩彦 (公社)滝川スカイスポーツ振興協会 理事 日口裕二 (株)ブラッサ 代表取締役 斎藤博 砂川市 係長 谷地雄樹 砂川市観光協会 事務局長 加茂谷和夫 砂川ハイウェイオアシス管理(株) 取締役支配人 山本敏和 大橋さくらんぼ園 代表取締役 大橋正数 芦別市 課長 高橋俊之、係長 滝口勝見、片山博也 ことばサポーターなぐね 代表 高野康夫 (株)DMC マネージャー 高柳未来 空知総合振興局 課長 藤田 博康 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、奥野幸美 【計 18 名】
実施概要		
参加者から『目標イメージ（東空知地域のインバウンドをこうしていきたい）』『インバウンド観光について現在、地域毎に起こっていること』『予想される今後のトレンド』について意見を出してもらい、参加者間での認識共有を図った。		

実施回	開催日	出席者
第 2 回	平成 27 年 11 月 30 日(月)	赤平市 係長 笹木学 滝川市 事務補佐 村上琴美 (公社)滝川スカイスポーツ振興協会 理事 日口裕二 (一社)滝川国際交流協会 理事 山内康裕 (株)ブラッサ 代表取締役 斎藤博 砂川市観光協会事務局長 加茂谷 和夫 砂川ハイウェイオアシス管理(株) 取締役支配人 山本敏和 (株)大橋さくらんぼ園 代表取締役 大橋正数 芦別市 課長 高橋俊之、係長 滝口勝見、片山博也、 地域まちおこし協力隊 宮下恭平 (株)DMC 札幌 マネージャー 高柳未来 空知総合振興局 係長 茶谷智子 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦、 奥野幸美 【計 19 名】
実施概要		
参加者から『地域をつなぐキーワード出し』を行ってもらい、グループワーク形式で季節毎にそれぞれ『団体向け』『FIT 向け』で、ルート案を作ってもらった（計 8 ルート）		

実施回	開催日	出席者
第 3 回	平成 27 年 12 月 24 日(木)	赤平市 係長 笹木学 滝川市 係長 今安紀子、事務補佐 村上琴美 (一社)たきかわ観光協会 事務局長 嶋田浩彦 (一社)滝川国際交流協会 理事 山内康裕 歌志内市 主査 佐藤良治 (株)ティ・エス・フードシステム 取締役 山崎紀雄 砂川市 係長 谷地雄樹 砂川観光協会 事務局長 加茂谷和夫 (株)大橋さくらんぼ園 代表取締役 大橋正数 芦別市 課長 高橋俊之、係長 滝口勝見、片山博也、 地域まちおこし協力隊 宮下恭平 札幌国際大学 講師 千葉里美 ことばサポーターなぐね 代表 高野康夫 (株)DMC マネージャー 高柳未来 空知総合振興局 係長 茶谷智子 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、奥野幸美 【計 22 名】
実施概要		
<p>当地のインバウンドの状況について、統計データに基づいた現状を分析と、課題を共有。コンセプトを『半径 20km の“ど北海道!!”～ナチュラル&エコロジー スタイルの提案～』として認識を共有。その後、地域として見せていきたい観光資源について意見出しを行った。</p>		

実施回	開催日	出席者
第 4 回	平成 28 年 1 月 19 日(火)	北海道タイドットコム サムット・タウンサリーカセット 札幌国際大学 朱盈、陳熾婷 赤平市 係長 笹木学、主事 吉田あい莉 赤平振興公社(株) 係長 上遠野光 滝川市 事務補佐 村上琴美 (公社)滝川スカイスポーツ振興協会 理事 日口裕二 (一社)たきかわ観光協会 事務局長 嶋田浩彦 (一社)滝川国際交流協会 理事 山内康裕 砂川市 係長 谷地雄樹 砂川観光協会 事務局長 加茂谷和夫 砂川ハイウェイオアシス管理(株) 取締役支配人 山本敏和 歌志内市 主査 佐藤良治 (株)大橋さくらんぼ園 代表取締役 大橋正数 芦別市 課長 高橋俊之、係長 滝口勝見、片山博也、 地域まちおこし協力隊 宮下恭平 (株)DMC マネージャー 高柳未来 (株)北海道チャイナワーク 統括部長 矢野友宏 北海道経済部観光局 主査 逸見光寿 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希 (株)近畿日本ツーリスト北海道 専任課長 市村将三 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、奥野幸美 【計 27 名】
実施概要		
<p>在道タイ人で観光振興に携わっている、サムット・タウンサリーカセット氏をゲストに、インバウンド受入れに向けた講演を開催。その後、サムット氏を交えた在道外国人 3 名によるパネルディスカッションを通じて、受入れの課題を広く検討。また、地域として見せたい観光資源についてのコメントももらった。</p>		

実施回	開催日	出席者（意見交換会出席者）
観光資源 発掘ツアー	平成 28 年 2 月 26 日(金) ～2 月 27 日(土)	<モニター：8 名> Delvin Abdiel Martinez（ニカラグア） Tyler Zumbran（アメリカ） CHENVIPAVEE（タイ） Nguyen（ベトナム） 何美薇（台湾） 韓尚佑（韓国） 禹到希（韓国） 汪柯（中国） <関係者：15 名> 赤平市 係長 笹木学 滝川市 係長 今安紀子 (公社)滝川スカイスポーツ振興協会 理事 日口裕二 (一社)滝川国際交流協会 係長 塩入正行 砂川市 係長 谷地雄樹 砂川ハイウェイオアシス管理(株) 取締役支配人 山本敏和 (株)大橋さくらんぼ園 代表取締役 大橋正数 芦別市 課長 高橋俊之、係長 滝口勝見、片山博也、 地域まらおこし協力隊 宮下恭平 空知総合振興局 課長 藤田康博 北海道観光振興機構 次長 掛田政希 (株)近畿日本ツーリスト北海道 専任課長 市村将三 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史 【計 23 名】
実施概要		
<p>在道外国人(計 8 名参加)による『観光資源発掘ツアー』を開催し、インバウンド受入について、地域で売込みを図りたい観光資源について、外国人視点から評価・フィードバックを行った。</p> <p>【コース概要】</p> <p>(1 日目) 札幌発→滝川→歌志内→赤平→芦別泊</p> <p>(2 日目) 芦別発→芦別→滝川→砂川→意見交換会→札幌着</p> <p>※北海道観光振興機構実施の事業に参加（受託：近畿日本ツーリスト）</p>		

実施回	開催日	出席者
第 5 回	平成 28 年 3 月 22 日(火)	赤平市 係長 笹木学 滝川市 係長 今安紀子、事務補佐 村上琴美 (一社)たきかわ観光協会 事務局長 嶋田浩彦 (一社)滝川国際交流協会 係長 塩入正行 歌志内市 主査 佐藤良治 (有)ティ・エス・フードシステム 取締役 山崎紀雄 (有)エコノミービジネスネットワーク 取締役社長 斉藤靖 砂川ハイウェイオアシス管理(株) 取締役支配人 山本敏和 (株)大橋さくらんぼ園 代表取締役 大橋正数 (株)芦別振興公社 課長 林誠 芦別市 課長 高橋俊之、係長 滝口勝見、片山博也、 地域まちおこし協力隊 宮下恭平 空知総合振興局 課長 藤田康博、係長 茶谷智子 北海道観光振興機構 次長 藤田栄一郎、次長 掛田政希、 次長 野田卓司 (株)道銀地域総合研究所 研究員 山本真史、研究員 田中明彦 【計 22 名】
実施概要		
モニターツアーの結果を受けて、出席者と一緒に、モデルコース及びアクションプランを検討。本会議としての事業実施計画をまとめた。		

※『会議の詳細』及び『開催場所』については、別添『議事録』をご参照下さい。

※『観光資源発掘ツアー』の行程については、別添『事業実施計画書』内に記載。

(2)事業計画及び今後の展開

検討項目	概要
1.地域の現状等	過去 15 年間に於ける空知総合振興局圏域の入込人数は、H18 年度をピークにほぼ右肩下がり推移中も、ここ 3 年間は横ばい。協議会の参画市における外国人は、H26 年度の芦別市、H23～H25 年度の滝川市で目立つ程度で、これまではほとんどみられていないのが実際のところ。
2.ターゲット	夏場の個人客 (FIT)：香港、台湾、シンガポール、韓国、タイ、オーストラリア → ハイシーズン (5 月～8 月) の受け入れ ・「今まで体験したことが無いことを体験したい」というのがニーズ。 ・今や個人向けマーケットは、団体向けより大きい。 ・個別の観光資源については、他地域と比較して小粒。したがって資源同士をパッケージ化することで訴求力強化の必要がある。 ・インセンティブツアーはこれから重要な資源であり、将来性のあるマーケット。 札幌は既に視察旅行の受入れ過多なので、地方の企業に流していくニーズがある。施設や工場で見学できるところが多いのは良いこと。
3.課題	・観光資源の発掘、魅力の掘り下げ ・プロモーションにおける地域間連携 ・2 次交通及び 2 次交通情報の整理 ・観光施設における言語対応 ・観光業の産業化
4.目標等	H28 年度は目標値把握の年とし、滝川市の「菜の花畑」に来場する外国人 FIT 客の人数を把握する。
5.アクションプラン	・観光ルートの構築 ・プロモーションツールの整備 ・海外の観光博覧会への参加 ・海外旅行代理店や著名ブロガー等の招聘 ・インターネットを通じた、外国語による観光情報の発信整備 ・東空知エリア内の観光事業者向け、インバウンド受入れ研修の実施

※事業実施計画については、別添『事業実施計画書』にまとめていますのでご参照下さい。

4. 事業実施に関わる全体考察

最後に本事業を実施した結果から、インバウンド観光客の受入れ経験が浅い地域及び、その検討を広域で行う際の推進ポイントについてまとめる。この推進ポイントを押さえながら会議を進めることで今後、同様の検討を進める地域においては、地域関係者が主体的かつスムーズに事業実施計画を策定することができる。

(1)会議参加者の巻き込み方（会議の議題を自分事にさせる工夫）

会議で議論が発展しない背景には、会議参加者の「他人事」意識がある。そのため会議運営では、議題を参加者にとっての「自分事」にさせる工夫が必要である。一般的な会議では「声の大きい人の意見が優先される」「自身の社会的立場で発言をしてしまう」等が原因で、多くの参加者が建前で議論する結果、当たり障りのない結論しか出ない「やっただけ会議」で終わってしまう。このことから会議運営者には、「あくまで個人意見として、本音で話をさせる」「参加者に順番に発言させていく」等の工夫によって、会議の中で『自分の意見が反映されている』という自己肯定感を感じさせ、参加者を巻き込んでいく必要がある。

併せて検討のためのフレームワーク提示も、議論促進には不可欠である。参加者に自由に発言させた結果、テーマから話が逸れていくことはよくあることから、議論フレームの明示によって、参加者が『今、何について話し合っているのか』を意識させることで、人数が多くても一定の枠内でテーマについて話し合うことが可能となる。

(2)外国人の本音の意見を聞く（モニターツアー等の実施を通じて実際に外国人を現地に来させて、彼ら・彼女らの意見を直接聞く機会を作る）

インバウンド観光客の受入れ経験が浅い地域では、直接的な観光事業者かどうかに関らず、『外国人の本音の意見』を聞く機会はほとんど無い（接点を持つ機会はあっても、『本当はどう思っているのか』を聞く機会はほとんど無い）。したがって地域でインバウンド観光受入れを検討する際には、まずはどんな形であれ『外国人の本音の意見』を聞くことが重要であり、それを通じて初めて、インバウンド観光の受入れに必要な視点に気付くことができる。また話を聞く際は必ずしも、海外在住の外国人を招聘して話を聞く必要は無い。最初は在道・在日外国人から意見を聞くことができれば、入口段階での『自分達の思い込み』や『日本と海外の文化・慣習の違い』に気付くことができ、インバウンド観光の受入れ整備に向けた具体的な指針に得ることができる。

(3)アクションの具体化（具体的なアクション実施に向けて、地元の観光事業者の巻き込む）

どんな施策も最後は、「やるか、やらないか」である。本事業のように、インバウンドの受入れ経験が少ない地域では、その推進当初は地元観光事業者よりも、行政機関中心に検討が進むことが多い。しかし実際のインバウンド受入れに向けてアクションを起こす際は、地元の観光事業者の巻き込みが不可欠である。一般的にはどんな新しい施策も、最初に興味・関心を示すのは全体の1〜2割でしかない。このことから、まずはやる気のある事業者だけでアクションを起こし、その実績を通じて他の観光事業者を巻き込むことで、施策の推進を図ることができる。

以上